

国立リハビリテーションセンター学院
リハビリテーション体育学科

同窓会 会報

第24号



同窓会会報 第24号

もくじ

1. 第16回RS同窓会報告	
1) 第16回RS同窓会プログラム	2
2) シンポジウム「RSの現状と課題、そして私たちの役割」アンケート (担当：13期生 久保田 崇之)	3
3) 平成20年度卒業生(17期生)卒業研究発表 「リハ・スポーツの手段としてのゴールボールの再活用」 17期生 寺本 朋弘	5
「リハビリテーション体育学科が考案したスポーツ運動強度の検討」 17期生 廣田 真紀	6
4) 職場紹介 医療法人社団 白鳳会 大角医院ディサービスセンター 16期生 鈴木 真生子	7
ふれ愛プラザ新潟県障害者交流センター 16期生 肥田 野篤史	9
5) 定期総会報告	11
2. 学院生紹介	
19期紹介	13
3. 会員研究報告	
「介護老人保健施設入所者の運動頻度と転倒の関係」 13期生 小林 岳雄	14

編集後記

表紙の写真：第16回同窓会(平成21年2月28日~3月1日)での懇親会の様子

1. 第16回リハビリテーション体育学科同窓会報告

1) 第16回リハビリテーション体育学科同窓会が、下記の日程・場所にて開催されました。

日程：2009年2月28日(土)～3月1日(日) 場所：国立障害者リハビリテーションセンター

・当日のプログラムは下記になります。

2月28日(土)

14:00～14:10	開会式
14:10～16:10	シンポジウム 「RSの現状と課題、そして私たちの役割」 司会：木畑@1期生 国立別府十重度障害者センター - パネリスト - ・地域利用施設の視点 (辻奥沙織@9期：前 大阪市舞洲障害者スポーツセンター) ・フリーでの活動からの視点 (伊藤秀一@9期：Community Link 代表) ・施設経営に携わる視点 (迎田考樹@5期：社福)福岡市立老人福祉センター福寿園 事務長) ・諸外国の視察の視点 (服部直充@3期：社福)太陽の家 健康推進課 課長) ・養成校の視点 (高橋春一@3期：国立障害者リハ・センター学院 教官)
16:20～18:00	定期総会(学院)
18:00～	懇親会(学院)

3月1日(日)

9:00～9:50	在校生紹介 卒業論文の発表 ・「リハ・スポーツの手段としてのゴールボールの再活用」 寺本朋弘@学院2年生 ・「リハ体育学科が考案したスポーツの運動強度の検討」 廣田真紀@学院2年生
10:00～11:30	職場紹介・活動報告 ・「大角医院デイサービスセンターにおけるRS」 鈴木真生子@16期 ・「ふれ愛プラザ新潟県障害者交流センターの紹介」 肥田野篤史@16期 活動報告 ・「同窓会主催のワークショップにおける対象者の理解」 小林岳雄@13期 ・「横浜桜陽高校"障害者スポーツ"授業紹介」 安江徹太郎@6期 「日本スポーツ精神医学会認定 メンタルヘルス運動指導士資格制度にむけて」 高橋春一@3期
11:30	閉会

2) RS 同窓会 シンポジウム アンケート結果

在校生(18期)

・今回のパネルディスカッションのテーマである『RSの現状と課題、そして私たちの役割』について、あなたの意見をお書きください。

- ・RSとしての課題がたくさんあることがわかった。まずは、しっかりと周知して社会での認知度を上げていくことが大切と感じた。そのためには、一人一人が責任感を持って、リハビリテーション体育とは何なのかを考えながら、それぞれの立場で最善の行動をとっていきべきだと感じた。知名度が上がれば必然と入学者は増えるはずである。RSの役割は、様々な重要な役割があるので、それらを意識して社会に出ていきたいと感じた。
 - ・先輩方のディスカッションを聞いて、RSというもののアピールが少ないと思った。資格という言葉に負けている印象だった。証が無くても、2年間の経験があるので自信を持ってRSをアピールしたらいいのではないかと思う。障害者スポーツ競技団体での活躍の場も必要なのではと思う。
 - ・私は、スポーツとしての視点で、現状の課題をなくしていきたいと思っております。アスリートの育成としての立場で、トレーナーという名より、RSという名を障害者の世界で広めていけば大きな広がりを見せ、アピールにもなると考えます。
 - ・私も今年卒業することになりますが、「RS」とは何か？と聞かれたら上手く説明できないことがありました。また、私なりに説明を行ったとしても、「理学療法士と違うんですか？」と聞き返されることもあります。やはり、それだけRSの存在が世間に浸透していないと思ってしまう。ありきたりかもしれませんが、まずはRSの存在を知ってもらうこと、それが一番重要になると思いました。
- 個人的には、RS主催のスポーツ大会を開催できれば、多少はRSを知ってもらえるのかもしれないと思ったりもしました。
- ・RSは職種として必要であると思われる一方で、まだまだ知らない人も多い現実を改めて実感した。職として成り立たないとRS学科で勉強しても不安であるし、入学者も増えないと思う。

・今回の話し合いを踏まえて、今後の同窓会として取り組んでいくべき事柄について、お書きください。

- ・障がいに関わらずのスポーツの活性化。
 - ・各地方でのRS同士のつながりの強化。また、国リハ学院全体他学科を含め、つながりを持っていく事が大切であると思う。
 - ・出来るだけ、人数を集められる日に設定する。
 - ・「RSの認知度を高める方法」は、今後考えていく必要があるように思いました。
 - ・RSの広報活動、資格などの検討。
- RSの職種を卒業生の中で統一するのは大事だと思うので、話し合う必要があるのでは？

OB・OG

- ・それぞれの視点から考えるRSについてお話を聞くことができ、大変勉強になりました。各発表の後の会員のRSの現状のお話もとても参考になりましたが、もう少し意見の交換の時間があつたら良かったなと感じました。(未記入)
- ・公務員として、民間組織の一員として、フリーとして活躍されている方々のお話から、沢山刺激を受けました。私個人としても、RSで学んだことを少しでも活かしていければと思います。(6期)
- ・社会の変化が激しい中、非常に厳しい状況だと思う。「学院 同窓会」を中心に講師などRSを知っ

- ている、もしくは、協力的な人たちとのパイプを深めて、年々変化していく社会の中での機にそなえ、準備をしていく必要があると思う。(8期)
- ・現時点での課題が分かったように思う。勉強になりました。それぞれの立場で今抱えている課題についても発表があったのは良かった。もう少し、やわらかい雰囲気があっても良かったのでは…。私は常に“RS”を意識してこなかったとも反省。みんなで足並みそろえ、世間にPRできれば強いだろうなとも感じた。(9期)
 - ・他の専門職へのRSの理解も大切だが、やはり一般人(対象者)への周知が一番大切だと思う。それには資格化だと思うが、それ以前にRS概念の同窓会員での統一(研修会など)が必要。(9期)
 - ・“リハビリテーション体育士”という名称で働ける環境を増やす。同じことをやっても、健康運動指導士として掲載されることがほとんど、なかなかリハビリテーション体育士が浸透していかない。現状として、社会的立場で低いことが多いが、自分たちがパイオニアとしての意識をしっかりと持って、長期的視野で道をつくっていく。
個々での取り組みには限界があると感じる(もちろん個々でRSを高めて、ひろめていくことは前提)ため、組織として手を打っていく(動き出す)ことが必要なと感じました。(9期)
 - ・現状と課題を明確にする良い機会となった。RSを外に発信していかなくてはいけないと考えた(広く一般に)。(13期)
 - ・私自身のことについてですが、職場においてRSを名乗れていないためRSとして名乗れるようになる必要があると感じました。地域の指導に出る際には、在宅者からスポーツをやりたいというニーズは感じています。ニーズをボランティアとしてではなく、仕事としていかに結びつけるかが難しいと感じています。(14期)
 - ・
 - ・同窓会の開催と合わせて、現状報告会という形で学院の全学科のOB・OG又は他外部?を集めて、情報発信していく機会を作ってみてはどうかと思いました。その中で得られた反応などを元に課題に取り組んでいくということも考えるみることも大切なのではと感じています。(未記入)
 - ・ピンチをチャンスに変え、機を逃さず、リハ体育士をアピールできるように準備をしておくことが大事だと感じました。(6期)
 - ・一人一人が自身をプロとして売れる存在になることやシステムティックに出来るための基盤作り。現状の整理をしながら、先をみでの準備 方針を立てる。そのため具体的な取り組みとその取り組みの評価。(8期)
 - ・研修会、交流会等、同窓生のつながりを強化できるようにし、互いに存在を認め、それぞれの立場で協働できるような取り組み。個々での活動でなく、RSの取り組みをまとめて社会にアピールする。(9期)
 - ・研修会の実施。RS資格化に向けてのRS教科書作成を進める。
(毎会同窓会に参加する会員や情報を発信する会員はだいたい決まった人なのが気がかかります。何か今までにあまり参加していない会員が参加しやすい同窓会にするなどの具体的な方策を考えたら良いかなと思います。)(9期)
 - ・RSをマネジメントする力(P R、広報、交渉力、プレゼン、他職種との親交)
大学院化は良いと思います。(処遇、社会的立場を含めて) 国リハ学院(硬くみられる、評価されない、処遇に反映されないことが多い)
RSセミナーの継続。(9期)
 - ・広く一般に周知してもらえるよう、事業に多く取り組むことが大事(セミナー、体験、グループワーク等々)。(13期)
 - ・RSを広める際の認識や概念について統一させる。(14期)

リハ・スポーツの手段としてのゴールボールの再活用

国立障害者リハビリテーションセンター学院
RS 17期 2番 寺本朋弘

目的

視力障害者のスポーツのひとつとして、「ゴールボール」がある。このスポーツの特徴は、座位姿勢から横臥位に移るといった二次元の動きを繰り返し、ボールを投げ合うものである。そのため、立位で行う種目よりも転倒などの危険性が低く、その反面、十分な運動量も期待できる。このことから、ゴールボールは健康づくりやレクリエーションまで幅広く楽しめる新たな運動やスポーツとしての活用が高い種目であると考えられる。しかし、ゴールボール中の運動強度や、経験の違いによる対象者が正式なルールに則って行った場合の身体への負担度については不明な点が多い。

そこで、本研究は、経験レベルの異なる対象者毎にゴールボール中の運動強度を明確にし、その結果からレクリエーションやリハビリテーションでの活用のための方法を模索する。

研究方法

ゴールボール女子日本代表選手5名(熟練群)、晴眼者学生6名(男性4名、女性2名:初心群)にゲームを行わせ、触診にてゲーム開始前安静時、ゲーム終了直後にHRの測定を行った。試合内容について、熟練群では、熟練群同士で10分間のゲームを6試合、10分ハーフのゲームを3試合行った。初心群は、初心群同士で5分間のゲームを3試合実施した。

結果

ゲームにおけるHRは、初心群 131.7 ± 20.9 拍/分、熟練群 158.2 ± 18.4 拍/分であった。また、同ゲームでの%HRmaxは、初心群 67.6 ± 11.0 %、熟練群 83.4 ± 10.0 %であった。

ゲームにおけるHRと%HRmaxを各群間で比較すると、熟練群が初心群よりも有意に高い値を示した(図1、2)。

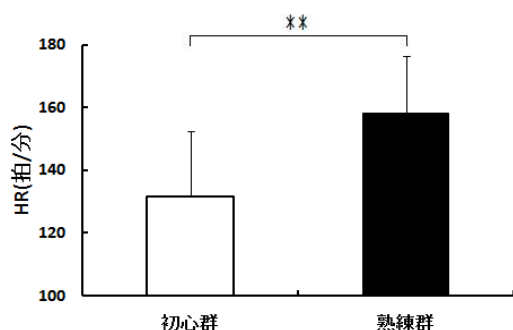


図1. ゲーム中のHRの群間比較

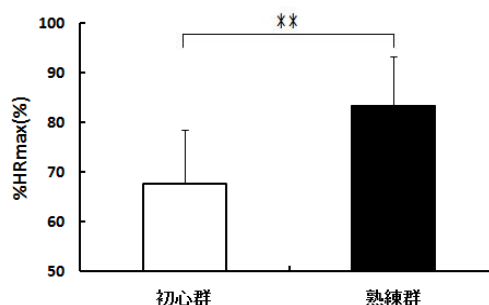


図2. ゲーム中の%HRmaxの群間比較

考察

熟練群のHRが最も高い値を示したことは、ゲーム中におけるスローイング数、ブロック数および移動回数などの要因が考えられる。この点を配慮することで運動強度のコントロールが可能になると思われる。

この結果をもとに、健康づくりやレクリエーションまで幅広く楽しめる新たな運動やスポーツとしての活用を報告する。

リハビリテーション体育学科が考案したスポーツの運動強度の検討

キーワード 障がい者スポーツ 心拍数 運動強度

RS 学科 17 期 3 番 廣田 真紀

【目的】

RS 学科では、病院や、更生訓練所の利用者を対象に指導を行っているが、行っている種目の目的は、楽しさや協調性の向上などが多く、実際の運動強度はどれぐらいなのか不明であった。そこで本研究は、実際の指導で、使用している種目の試合中における心拍数を測定することで、その運動強度を明らかにし、今後の指導で活用するための指標を得ることを目的とした。

【方法】

対象は、体育の授業に参加している男性で、立位クラス (SE) 3 名、車いすクラス (WE) 1 名に対し、安静時および試合終了後の HR、RPE と楽しさの尺度に VAS の測定を実施した。

測定種目は、SE においてはグラウンドゴルフ、スポーツチャンバラ、ユニバーサルホッケー、風船バレーを、WE は、グラウンドゴルフ、ユニバーサルホッケー、ドッチビー、ラグビーの 4 種目ずつを選択し、種目ごとに運動強度を予測した。SE に関しては、目標とする運動強度を低強度とし、先行研究をもとに 100 拍/分以下になるようルールの変更を行った。WE に関しては、中強度の運動を目標とし、HR100~110 拍/分となるようルールの変更を行った。

【結果】

SE における試合終了直後の HR は、4 種目ともほぼ 100 拍/分以下となった。RPE、VAS は、ともにスポーツチャンバラが一番高い値となった。

WE では 4 種目とも、全体的に目標 HR より高い値となった。RPE、VAS はラグビーが一番高く、VAS に関しては、全ての種目で 10 を示した。

【考察】

SE においては 4 種目ともほぼ 100 拍/分以下で HR が変動していた。このことから、HR が 100 拍/分以下の低強度となるよう設定した今回のルール変更は、適当であったと考えられる。

しかし、健康増進を目的としたり、運動量を確保したいときにはルール改善が必要であると思われる。例えば、風船バレーやユニバーサルホッケーのような集団要素が強い種目に関しては、全員が打ってから返球する、試合時間を長くするなど、対象者が参加する機会や時間を増やすようなルールが考えられる。

WE のラグビーは、自分が思ったよりもコート内を走り回っていたことが、HR 上昇につながったのではないかと考えられる。ラグビーに関しては、HR を調節するためのルール改善案として、攻撃側に時間や移動の制限を設けたり、コートを狭くするなどが挙げられる。

【まとめ】

- 1) SE 種目は 4 種目とも目標とした HR の 100 拍/分以下の運動強度で種目を提供することができた。
- 2) WE 種目は全体的に目標 HR よりも高い結果となった。
- 3) 障害のある人にスポーツ指導を行う際、服薬の有無、スポーツ経験などを考慮し、安全で楽しくスポーツが実施できるよう種目やルールの工夫が必要である。

4) 職場紹介

職場紹介 ~約1年間を振り返って~ 医療法人社団 白鳳会 大角医院デイサービスセンター RS16期 鈴木 真生子

職員

- ・リハビリテーション体育士(2名)
 - ・運動指導員(1名)
 - ・介護士(1名)
 - ・看護師(2名)
 - ・介護相談員(1名)
 - ・理学療法士(非常勤/3名)
 - ・介護事務員(1名)
- ※人数は曜日によって異なる。
- ◆リハビリテーション体育士(業務内容)
 - ・運動プログラム指導
 - ・運動処方(理学療法士による初回評価に基づく)
 - ・リハ実施計画書作成(介護計画書)
 - ・その他(送迎・介護業務・昼食/お茶/おやつ準備など)

利用者概要(H21.2 現在)

◆曜日ごとにおける利用者の状況

	月	火	水	木	金	土
人数	23/35	28/35	27/35	24/35	30/35	15/15

※H20.8~ 各曜日(土曜日を除く)利用者定員を30名→35名へ拡大。

◆利用者の主な疾患

- ・脳血管障害(脳出血・脳梗塞など)
- ・整形疾患(変形性膝関節症/腰椎症・骨折など)
- ・脊髄疾患(脊髄障害・脊髄疾患など)
- ・変性疾患(パーキンソン病・パーキンソニズムなど)

一日の流れ

☆プログラム☆ (提供時間:10:00~16:15)

- 10:00 到着(看護師による問診、バイタル確認→手洗い・うがい)
- 10:40 準備体操(全員)
- 11:00 各グループに分かれての運動・嚥下体操
- 12:15 昼食・休憩
- 14:00 準備体操(全員)
- 14:30 各グループに分かれての運動
- 15:30 お茶・休憩
- 16:00 デイサービス終了
- 16:15 送迎出発→ご自宅へ

サービスの内容

◆曜日ごとの運動プログラム内容

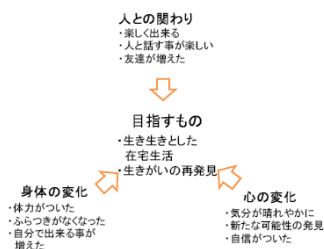
	月	火	水	木	金
AM	座位運動	座位運動	集団運動	マット上運動	座位運動
	平行棒内運動	平行棒内運動	平行棒内運動	平行棒内運動	平行棒内運動
	マシントレーニング	マシントレーニング	マシントレーニング	マシントレーニング	マシントレーニング
PM	集団運動	マット上運動	座位運動	作業活動	集団運動
	平行棒内運動	平行棒内運動	平行棒内運動	平行棒内運動	平行棒内運動
	マシントレーニング	マシントレーニング	マシントレーニング	マシントレーニング	マシントレーニング

※土曜日は月に1度(午前中のみ)、理学療法士による運動指導あり。

- ・基本的には、各グループ1人のスタッフが担当し、プログラムを行う。
- ・プログラム内容は、その日の担当スタッフが決定する。

目的

楽しく・安全で・効果的な運動プログラムの実施!!



運動プログラム1

座位運動

◆主な内容

- ・ストレッチ
- ・筋力強化
- ・関節可動域運動
- ・起居動作運動
- ・立位バランス運動
- ・歩行バランス運動
- ・介助歩行

など

集団運動

◆主な内容

- ・ストレッチ
- ・筋力強化
- ・関節可動域運動
- ・リズム運動
- ・ボール(など道具を使った)運動
- ・RSプログラム

など

運動プログラム2

マット上運動

- ◆主な内容
- ・ストレッチ
- ・筋力強化
- ・関節可動域運動
- ・バランス運動
- ・起居動作運動

平行棒内運動

- ◆主な内容
- ・ストレッチ
- ・筋力強化
- ・起居動作運動
- ・立位バランス運動
- ・歩行バランス運動
- ・応用歩行
- ・介助歩行

など

など

運動プログラム3

マシントレーニング

- ◆使用器具
- ・自転車エルゴメーター
- ・トレッドミル
- ・レッグプレス
- ・レッグエクステンション
- ・プーリー
- ・滑車

※個人により使用器具、実施頻度・負荷・回数は異なる。

その他

- ・準備体操(午前、午後)
 - ・嚙下体操(昼食前)
- ※飲み込みに必要な口や喉の周りの筋肉や、舌の動きを活発することで、誤嚥を防ぐための体操。

RS実践内容紹介

☆オリンピック野球☆(別紙参照)

対象者:通所利用者(約17名)

場所:リハ室

時間:11:15~12:00(約45分)

スタッフ:リハビリテーション体育士(2名)

用具:ビーチボール(空気の軽く抜けたもの)・ピコピコハンマー・椅子(台)・ホワイトボード・くじ・ペン・はちまき(紅白)

RS実践内容紹介

◆楽しく、安全で、効果的なプログラム

- ・使用道具、用具の工夫
- ・ルールの工夫(しかけ)
- ・臨場感ある場面設定
- ・導入の工夫
- ・話題展開
- ・声かけ、雰囲気作り
- ・スタッフが笑顔で楽しむ
- ・スタッフのオリジナリティ

◆心掛けている事

- ・限られた環境(場所、道具、時間、スタッフ数...)の中で、いかに安全、効率的、効果的な運動を提供出来るか
- ・諸動作そのものがやって面白い
- ・その競技の特徴が損なわれていないか
- ・目的(ねらい)が明確であるか
- ・安全管理(介助者の配置、役割、声かけ、ルール)

RS実践を通して

◆RSプログラム(集団活動)のメリット

- ・皆と一緒に出来る、楽しい、夢になる(心身の活動性の向上)
- ・声を出す(人の名前を呼ぶ、無意識に出る声、掛け声)
- ・コミュニケーションの機会(人と話す、作戦を立てる)
- ・他チーム(他人)との競争(負けたくない、自分にも出来る=心の動きを引き出す)
- ・自分を知る(能力の限界、出来ること・出来ないこと、他者との比較)
- ・互いを認め合う(名前を呼び合う、褒め合う、様々な感情を共感する)

最後に...

☆RS普及へ向けて☆

◎「リハビリテーション体育士」をアピール!

- ・営業先、担当者会議、ケアマネージャーとのやり取りにおいて、「リハ体育士とは？」を始め、その専門性・ニーズなどを宣伝する。
- ・事業所パンフレットに記載
- ・RS実施記録の作成(実施記録を残す)
- ・高齢者事業所向けの研修発表会での発表

職場紹介

ふれ愛プラザ新潟県障害者交流センター

指導員 肥田 野篤史 (RS16期)

～交流センター～

- ・平成9年4月に新潟県によって開設。
- ・スポーツ・文化・リハビリテーションの3つを柱にして、「交流」をテーマにしている施設。
- ・障害者の社会参加推進を目的にしている。
- ・平成18年度より指定管理者制度が導入され、現在は、(社)新潟県身体障害者団体連合会が指定管理者として管理・運営を任されている。



プール



リハビリトレーニング室



体育館



プレイルーム

体育施設



STT室



会議室



研修室



集会室



音楽室

文化施設



ミーティングルーム



宿泊室(和室・洋室)

～交流センター主催事業～

・リハビリテーション活動支援事業

- ①自主トレーニング支援
- ②リハビリテーション教室

- ・自主トレーニング支援 → 個別指導等
- ・リハビリ健康相談 → リハビリの基礎知識を学ぶ
- ・リハビリ健康相談会 → PTによる相談
- ・リハビリ健康相談講座 → 障害基礎年金の相談会

レクリエーション・スポーツ教室



体操



野球



テニス



編み物

～交流センター主催事業～

・スポーツ活動支援事業

- ①水泳教室
- ②フットサル教室
- ③卓球教室
- ④アーチェリー教室
- ⑤わんぱくエクササイズ
- ⑥水中運動教室

水泳教室(水泳ワンポイント)

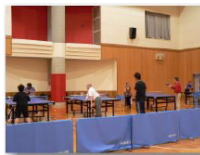
- ・ 障害の有無を問わず泳げない方、上達したい方を対象としている。
- ・ 対象者を3つに分けている。

- ①障害の有無を問わない
- ②療育手帳をお持ちの方
- ③療育手帳以外の障害者



卓球教室(卓球ワンポイント)

- ・ 障害の有無を問わずに卓球を行ないたい方
- ・ それぞれのレベル合わせて指導



アーチェリー教室(ACワンポイント)

- ・ 障害の有無を問わずにアーチェリーを行ないたい方。
- ・ 体育館で行なう。



文化活動支援事業

- ・ 手芸教室
- ・ フラワーアレンジメント教室
- ・ 書道教室
- ・ やさしいデジタルカメラ教室
- ・ 楽しい合唱教室
- ・ 大人の塗り絵教室
- ・ 親子創作教室

地域交流事業

- ・ ふれ愛さくらまつり
- ・ ソフトバレーボール交流大会
- ・ 向陽ふれ愛夏まつり
- ・ ふれ愛アートチャレンジ
- ・ ふれ愛プロムナードコンサート

5) 定期総会報告

第16回RS同窓会 定期総会の報告として、当日配布された議案書を掲載します。

定期総会議案書

平成21年2月28日(土)

国立障害者リハビリテーションセンター学院 6階中研修室

同窓会活動

1. 会員間および会員と学院生間の交流
 - (1) 会員間の情報交換手段の充実
会員名簿の作成・配付やインターネットを通じての情報網の確立、年に1度の同窓会開催
 - (2) 学院 - 会員間のパイプづくり
会報への学院情報掲載、年に1度の同窓会開催
2. RSのアイデンティティ確立に向けて情報交換、情報発信
研修会・講演会・発表会の開催、会報への情報掲載、ホームページを利用した情報発信
3. 日本リハビリテーション体育士会との協力体制、リハ体育士会への会員登録促進と連携体制の確立

議案

1号議案

【平成20年度実施事業報告】

1. 理事会開催

- (1) 第1回 平成20年3月4日(日) 12:30~18:00 15名参加
- (2) 第2回 平成20年12月13日(日) 13:00~17:00 15名参加
- (3) 北村先生退官記念 第1回目 平成20年4月26日(土) 13:00~18:00 5名参加
第2回目 平成20年7月26日(土) 13:00~17:00 2名参加
第3回目 平成20年10月4日(土) 13:00~18:00 6名参加

2. 第16回リハ体育同窓会開催(シンポジウム、発表会、定期総会、懇親会など)

平成21年2月28日(土) 3月1日(日)

3. RSジャーナル発行(平成20年5月号)

4. 同窓会会員名簿発行(平成20年6月発行): 発行日を検討

5. 同窓会会報発行 第22号(平成20年6月発行)

第23号(平成21年3月発行)

6. RSネット(ホームページ)の運用

* 医療体育研究会の発行誌「リハビリテーションスポーツ」27巻1号(6月30日発行)の
"ホームページ訪問"にてRS Netを紹介。

7. 祝電・年賀状送付 祝電(卒業式、入学式) 年賀状

8. 北村先生退官記念パーティー

平成20年11月1日(土) 14:00~17:00 42名参加(会員)

9. 平成19年度RS卒業研究抄録集作成費補助(RS16期)

10. 小冊子の作成について

11. 第18回日本障害者スポーツ学会の共催について

平成21年1月31日(土) スタッフ協力: 14名(会員) 学会参加: 3名(会員)

2号議案

【平成20年度収支決算報告】

3号議案

【新会員の紹介】

平成 21 年度リハ体育学科卒業生 2 名を新会員として承認したい。

新会員予定者（卒業生）に対しての同窓会入会案内（同窓会の目的・活動内容・入会の方法）を配布する。同窓会入会案内は学院にて保管。毎年卒業時に新会員予定者に配付して入会案内とする。

4号議案

【平成 21 年度同窓会役員・部員の選出】

5号議案

【平成 21 年度収支予算案】

6号議案

【平成 21 年度実施事業計画案】

1. 理事会開催
2. 第 17 回リハ体育同窓会開催
3. RS ジャーナル発行（平成 21 年 5 月号）
4. 同窓会会員名簿発行（平成 21 年 6 月号）
5. 同窓会会報発行第 24 号（平成 21 年 12 月号）
第 17 回リハ体育同窓会案内時まで作成
6. RS ネット運用
7. 祝電・年賀状送付 祝電（卒業式、入学式）年賀状
8. 第 30 回医療体育研究会/第 13 回日本アダプテッド体育・スポーツ学会 第 11 回大会の後援
平成 21 年 11 月 7 日（土）8 日（日）

7号議案

【検討事項】

1. 学院外講師の対応（退官、他界）
2. 同窓会関連の会合参加時の交通費の支給について
別資料「RSOB 旅費基準（仮）」を参照のもと検討する。

8号議案

【連絡事項】

1. RS 書籍「リハビリテーション体育」の作成
別資料 { RS 書籍『リハビリテーション体育』} を参照のもと検討する。
2. 同窓会名簿の配布
来年度から同窓会会報発送時に、名簿に関連する事項の変更ハガキを同封し、事務局にて集約する。その際に平行し、今まで同様に各期代表理事から各期へ連絡をいれ、変更などの情報収集をしていく。
配布に関しては、同窓会会員で希望者のみに郵送するようにしていく。その連絡は、郵送時に行う。
3. クラウスシューレ教授の講演会
「第 30 回医療体育研究会/第 13 回日本アダプテッド体育・スポーツ学会 第 11 回大会」にてシューレ教授の講演会・ワークショップの企画書を理事会にて提出して検討予定
4. RS 普及対策（大学への働きかけについて）
第 1 回理事会以降から動きなし。順次、現在行っている業務の様子を見ながら展開していく。

2. 学院生紹介

リハビリテーション体育学科 第19期生 (2009年度入学) 自己紹介

石垣 祥子(いしがき しょうこ)(RS0901)

「出身地」・・・埼玉県 「出身大学」・・・日本体育大学 「血液型」・・・A型

「身長」・・・159cm 「誕生年月日」・・・1987年(昭和62年)3月3日

「得意種目」・・・ソフトボール、スキー

「コメント」・・・石垣祥子、22歳。小学校2年生からミニバスケットボールを、中学校1年生からソフトボールを始め、今は東京都のクラブチームに所属し、現在に至ります。今年は決勝で負け、全国に行けなかったのが、来年こそは絶対に!!!

スポーツを通じて、チームワークの大切さを学び、いい仲間に出会えました。

今までは自分自身が競技者としてスポーツを行ってきましたが、国リハに入学し指導する立場になって、改めて指導の難しさを実感しています。新しく始めたスポーツでは、ゴールボールに苦戦中ですが、新鮮な気持ちで取り組んでいます。しかし、何事にもまずは楽しむことをモットーに2年間色々な事に挑戦していこうと思います。宜しくお願い致します。

熊谷 俊介(くまがい しゅんすけ)(RS0902)

「出身地」・・・新潟県 「出身大学」・・・国土舘大学体育学部 「血液型」・・・O型

「身長」・・・163cm 「誕生年月日」・・・1987年(昭和62年)1月31日

「得意種目」・・・体操競技

「コメント」・・・小学校4年生から体操競技を始め、大学まで続けてきました。体操競技を通して体を動かす楽しさを知り、スポーツを通じた仕事に就きたいと思い、現在に至ります。趣味は、お酒と映画鑑賞と体操を見ること。非常に面倒臭がり、自分のやりたい事しかやらない自己中&マイペース。でも、人生何とかなさ、と思って日々を過ごす自由人です。今年は、全日本社会人体操競技選手権大会2部に出場します。怪我の無いように、体操に学校に頑張っていきます。

橋本 拓(はしもと たく)(RS0903)

「出身地」・・・宮城県 「出身大学」・・・仙台大学体育学部健康福祉学科

「血液型」・・・B型 「身長」・・・181cm

「誕生年月日」・・・1986年(昭和61年)10月26日

「得意種目」・・・水泳

「コメント」・・・体は大きく、精神は幼い、年増に見られる22歳。小学校2年生の時にスイミングスクールに通い始め、以後、高校卒業までの10年間通い続けた。高校3年生の時、将来の進路について悩んだが、祖母からの一言が切っ掛けで「介護」の道を志す。仙台大学で介護福祉士の資格取得に向け、4年間、実習や勉学に励み、無事に資格を取得。そこで学んでいるうち、自らの力不足を痛感し、更に技術を身に付けるため、リハビリテーション体育学科に入学し、現在に至る。クラスの中では、委員長としてまとめ役であるが、同級生、先輩や先生方も含めて、いじられている事が多い。自分では、そんな魅力が何処に有るのか、不思議でならないという。

趣味は、写真撮影や音楽鑑賞、こちらに来てからは料理も少々。将来は、介護系の現場でこれまでの経験を生かし、他の人の役に立って、その人の力になれるようになりたいと考えている。

3 . 会員研究報告

13期の小林岳雄さん（龍岡介護老人保健施設）が下記の通り発表されています。

第29回 医療体育研究会 / 第12回 日本アダプティッド体育・スポーツ学会
第10回 合同大会（会期：2008年12月6日～7日、会場：京都女子大学）

演題：「介護老人保健施設入所者の運動頻度と転倒の関係」

RSnet 上の PDF ファイルからは、外部で発表された抄録・資料等を適宜削除しています。

～ 編集後記 ～

大変遅くなり申し訳ありません。会報誌 24 号をようやくお届けできます。原稿を提供していただいた会員の皆様、事務局、その他ご協力していただいた皆様に大変ご迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び致します。

そして、編集から発送に至るまで、ご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

情報担当 安江 徹太郎

平成 23 年 5 月 31 日

発行 : 平成 23 年 6 月 6 日

発行所 : 〒359-0042

埼玉県所沢市並木 4 - 1 国立障害者リハビリテーションセンター学院
リハビリテーション体育学科内

編集 : 安江 徹太郎

発行責任者 : 岩淵 典仁